

# あなたこそ神の聖者

ヨハネによる福音書 6 : 60 - 69



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年8月25日  
聖霊降臨後第14主日

京都聖三一教会にて

イエスさまの公的な活動の期間は、2年から3年と言われます。その短い時間の中で人々に与えた影響は、考えられないほど大きいものでした。ここに今日、わたしたちが集まって礼拝しているのも、そのゆえです。

けれどもその2年ないし3年のイエスさまの活動はずっと順調であったわけではありません。イエスを愛し慕う多くの人々がいる一方、反対にイエスを憎み迫害する者たちがいました。そしてその中間にこういう人たちがいます。イエスに従って来てはいるけれども、中心は自分の側にあって、自分の欲求を満たしてくれるかぎりにおいてついて来る。しかしイエスが自分の考えや期待に添わないと知れば、イエスを見限って離れ去って行く。それが今日の福音書であらわになった事態です。

今日の福音書の直前のところでイエスは、「わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物」(ヨハネ 6:55)と言われ、わたしによって生きるように、と言われました。これを聞いた弟子たちの反応から、今日の福音書は始まっています。

「ところで、弟子たちの多くの者はこれを聞いて言った。『実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか。』」

ヨハネ 6:60

「このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった」(6:66)と記されています。

これはイエスの活動の危機でした。せつかくこれまで、祈り、教え、苦勞して積み重ねてきたものが一挙に崩れ去るかのようです。しかもイエスは、離れて行く人たちをもご自分の弟子たちとして愛しておられましたから、その悲しみと失望はどれほど大きなものであったことでしょうか。もし、その場にわたしたちがいたとすればどうしたでしょうか。

イエスは残ったわずかの弟子、十二人にこう言われます。

**「あなたがたも離れて行きたいか」ヨハネ 6:67**

シモン・ペテロが答えて言いました。

**「主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。」6:68-69**

彼らはイエスのもとにとどまりました。今日はこのペテロの言葉を一つひとつ大切に聞いてみましょう。

イエスの問いかけに対してペテロは、「主よ」と呼びかけました。これまでもペテロは何度もイエスに、「主よ」と呼びかけてきたでしょう。けれども、今、彼が「主よ」と呼びかけるその言葉には、これまでにない彼の決意と真心が込められています。あなたこそが「主」、わたしたちの救い主です。

ひょっとしたらわたしたちも、「主よ」と呼びながら、実はわたしのほうが「主」であって、必要なときにはイエスに頼るけ

れども、そうでないときには忘れるか遠ざける。わたしが「主」で、イエスが「従」になっている、ということがあるかもしれませんが。けれども人生のある時に、イエスこそが「主」であって、わたしが「従」、僕しもべ。イエスが導いてくださってわたしが従う、ということがはっきりすることがあるでしょう。その時こそ、イエスをほんとうに知ったと言えるのです。それが今のペテロたちです。

**「主よ、わたしたちはだれのところへ行きましょうか。」**

他のどこにも、ほかのだれのところにもわたしたちは行きません。わたしたちは、あなたと出会った。あなたがわたしたちを招かれた。それでわたしたちはいろんなものを捨ててあなたに従った。わたしたちは自分の人生をあなたに託したのです。あなたによってわたしたちは神の恵みと真理を知らされた。もっとはっきり言えば、神さまそのものを経験してきたのです。そのようなあなたを離れてどこに行きましょうか。

**「あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。」**

イエスさま、わたしたちはあなたをとおして神さまの声を聞いてきました。わたしたちはそれを食べるようにして、それを支えにしてここまで従ってきたのです。あなたの言葉は永遠の命の言葉。それなしにはわたしたちは生きることができません。あなたの言葉によって、どんな困難も、死も、乗り越えていく

ことができると思っています。

ここでわたしは皆さまにお願いしたい。イエスから永遠の命の言葉を得てほしい。それはどこかにあるのではなく、イエスにあるのです。それを曖昧にしたままでいてほしくない。わたしたちを愛しておられるイエスから離れないでほしいのです。

ペテロは続けて言います。

**「あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。」ヨハネ 6:69**

イエスはただ教師であるだけでなく、神の言葉を伝えてくれる方であるばかりではなく、「**神の聖者**」である。どういうことでしょうか。

「神の聖者」。同じ言葉をイエスに向かって叫んだ人がもう一人います。以前、カファルナウムの会堂礼拝でイエスさまが説教しておられる最中に、ひとりの男が叫びだしました。

**「ナザレのイエス。わたしにかまうな。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」マルコ 1:24**

憎しみに燃えてイエスに反抗したこの人。汚れた霊に取り憑かれた男と記されたこの人は——この人と言うよりこの男に取りついた霊は——イエスの正体、本質をはっきり認識していました。イエスが近づくと自分が脅かされる。イエスが語ると、

隠していた自分の悪しき本性があらわにされてしまう。もう耐えがたい限界に来て、この男は叫ばずにはいられなかった。

**「我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ！」**

イエスは「黙れ。この人から出て行け」と言われました。汚れた霊は追放され、この人は、癒やされ救われます。神の聖者、聖なる方は、潜んでいる悪しき力を暴き出し、追放する。そうして人を清めて救うのです。

イエスは聖なる神から来られた聖なる方。イエスのうちには聖なる神の愛の火が燃えています。その火は不純な人の魂を焼き清め、赦して救う。人を造り変える。それを弟子たちははっきりと知ったのでした。

**「あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。」ヨハネ 6:69**

**「あなたがたも離れて行きたいか」**

あのイエスの問いかけが、弟子たちの中に、イエスへの熱い思いを呼び起こしました。弟子たちのうちに湧き出た信仰告白が、彼らを勇気づけます。ここから新しく弟子たちは真心をもってイエスに従っていきます。今までと同じようであっても同じではありません。聖なる方イエスの愛の火が、自分たちの胸にも燃えはじめたのですから。

祈ります。

主イエスさま、どうかわたしたちも、何があってもあなたから離れることがないようにしてください。試練に遭うとき、かえってそれをとおして、聖なる方であるあなたをはっきりと知るようにしてください。あなたの永遠の命の言葉がわたしたちを生かしてください。あなたの聖なる愛の火がわたしたちを清め救ってください。そうしてあなたを信じ告白することの限らない祝福を味わわせてください。アーメン